

協豊会 関西地区 連絡担当者会及び分科会活動

## 2016年度 第10回 協豊会関西地区連絡担当者会及び講演会を開催しました。

3月29日（火）13時から、住友クラブにおいて2016年度第10回協豊会関西地区連絡担当者会及び講演会を開催いたしました。当日は協豊会関西地区会員会社31社33名、関東地区より1名総勢34名が参加し、2017年度協豊会関西地区活動方針及び活動推進組織・体制等について浜野総務運営委員長より説明して頂き、情報の共有化を図りました。

その後トヨタ自動車 総務・人事本部スポーツ強化・地域貢献室 主幹 廣瀬 佳司様に「トヨタ運動部活動紹介」について、防衛省防衛大学校 電気情報学群機能材料工学科名誉教授 守本 純様に「21世紀のエネルギー問題～日本の安全の観点からエネルギーを考える～」についてご講演を頂きました。

トヨタ自動車 総務・人事本部 スポーツ強化・地域貢献室主幹の廣瀬様より、現在保有する7つの強化クラブの活躍は、リーマンショックや東日本大震災などの影響による会社の厳しい状況時に社員に活気や団結力を与える大切な存在になっており、またスポーツ教室等、地域社会との交流を通じた活発な社会貢献活動の状況のお話しをいただきました。

今後は、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けメインスポンサーとして積極的な活動を展開する旨のお話しもお聞きすることができました。

協豊会関西地区も引き続き CSR 分科会を中心に関西地区で開催されるトヨタ運動部の試合の応援を積極的に継続・拡大していきたいと強く感じました。



【講師の廣瀬主幹様】



【講演風景】

続いて、防衛省防衛大学校 名誉教授の守本純様より「21世紀のエネルギー問題～日本の安全の観点からエネルギーを考える～」についてご講演を頂きました。

守本様は、防衛大学校の教授から材料物性工学科長、電気情報学群長、理工学研究科教務主事を経て、現在は防衛大学校の名誉教授として「エネルギーと材料」についてご研究されています。

講演では、エネルギー保存の法則があるのに、なぜエネルギー危機が起こる可能性があるのかという問題について、化石エネルギーを消費し続ける事は利用可能なエネルギー（エクセルギー）を減少させ、利用できない低レベルのエネルギー（エントロピー）を増大させるという、「熱力学第二法則」を用いて分かり易く解説していただきました。

また、次世代半導体のシリコンカーバイドに関しては、電力損失の低減効果で原子力発電所 8、9 基分に匹敵する非常に重要なデバイスであり、防衛面でも艦船、航空機、戦闘車両の性能向上にも大きく貢献できる可能性があることがわかりました。しかしながら、そのシリコンカーバイド単結晶は、米国の一社が世界市場をほぼ独占していて、防衛技術の問題だけでなく日本が電子立国であり続けられるか否かという重大な局面であることも理解することができました。

そして、21 世紀のエネルギー問題を解決する鍵は、「光電変換」「熱電変換」「パワーエレクトロニクス」であるという総括で、ご講演を締めくくられました。

エネルギー保存則のお話では、エネルギー単位を身近な例で換算していただき、難解な専門用語では無く豊富な事例紹介を交えての解説であったので、専門知識が無くても十分理解できる内容でした。

また、日頃は目に触れることの無い防衛大学校の組織や、日本の防衛の課題もお話していただき、大変有意義な講演会でした。



【講師の守本名誉教授】



【講演風景】